

2014年1月6日

社長年頭挨拶（要旨）

トヨタ車体株式会社では、1月6日（月）11時10分より、トヨタ車体健保会館で辞令交付式を行いました。この中で、網岡卓二社長が従業員に向けて年頭の挨拶を行いました。挨拶の要旨は以下の通りです。

◇今年の重点課題

1. もっといいクルマづくりへの取り組み強化

当社としてトヨタ自動車の支援を受けながら、初めてプラットフォームの開発に取り組んだ新型ヴォクシー・ノアがまもなく発売になります。今後のクルマの開発においてもさらにお客様の声を聞き、競合他車をしっかりベンチマークして企画開発提案を積極的に行い、いいクルマに仕立てていくことが重要です。お客様の要望は常に進化しています。時代を先取りし、世界に愛されるクルマを開発していかなければなりません。

また、世界各国で排ガスや安全性能などの規制が年々厳しくなっており、新たな商用車の開発が必要になっています。商用車は廉価で耐久性のある強いクルマが求められます。革新的なクルマづくりを行い、次期商用車の開発を成功させましょう。

2. 海外事業を柱とした成長戦略

世界の自動車市場は、新興国を中心とした成長が見込まれます。当社の担当車種であるハイエースやランドクルーザー70は、新興国で必要とされているクルマです。未導入国などの市場調査を行い、お客様の声を聞きながら今後の方策をトヨタ自動車と連携しながら考えていきましょう。

また、2020年に東京でオリンピック・パラリンピックが開催されることが決まりました。特にパラリンピックは「福祉のトヨタ車体」をPRする絶好の機会です。当社が得意とする特装・福祉車両が会場で活躍し、貢献できるような商品戦略を練り上げましょう。

3. 収益性の向上を中心とした体質強化

新型ヴォクシー・ノアは、お客様に最高の品質でタイムリーにお届けできるよう、万全な立ち上げを行ってほしいと思います。今回、全社一丸となって取り組んだ原価低減活動は、次のクルマの開発においても、その経験を生かして、さらに強気に推進し、強い企業体質をつくっていきましょう。

これら3つの重点課題を成し遂げるために、「夢を持ち、高い目標を掲げて、変革に挑戦し続けて欲しい」と思います。今年の干支である午年にちなみ、荒野を颯爽と駆け抜けるような力強く活動的な年になるよう、世界を知り、世界を相手に仕事をしましょう。

以上